# COVID-19 蔓延下における個別大学の入試に関する高校側の意見

倉元 直樹，宮本 友弘，長濱裕幸（東北大学）

2021（令和３）年度入試は特別な年となった。高大接続改革の開始予定年度であったが急な方針転換の上に，突然，COVID-19 の流行に見舞われ，その中で受験生も実施側も未経験の対応に追われたからである。本稿は東北大学が個別大学としてコロナ禍の下で万全な入試実施を模索するために，ＡＯ入試Ⅱ期，Ⅲ期及び一般選抜を対象にして行った高校調査の結果である。2020（令和２）年秋の時点では，筆記試験に対しては地方会場の設置，面接試験はオンラインの希望が多かった。コロナ禍の下で初の入学者選抜を終えた現在，貴重な経験を踏まえ，受験生保護の原則に基づく「ウィズコロナ時代」の大学入試の検討が喫緊の課題となるだろう。

## 1　問題と目的

### 1.1 コロナ禍の下での大学入学者選抜の準備

当初から 2021（令和３）年度入試には特別の位置づけが与えられていた。それは，高大接続答申（中央教育審議会，2014）の下に進められた高大接続改革の導入予定年だったことによる。受験生も大学も大改革への対応に追われていた。東北大学は，入試の激変は回避したものの，大学入学共通テスト（以後，「共通テスト」と略記する）への記述式問題導入に端を発する日程問題からＡＯⅢ期が継続不可能になる危機に追い込まれ，第１次選考に自己採点を利用するという「奇策」に打って出ることになった（倉元ほか，2019）。ところが，高大接続改革は 2019（令和元）年末頃から次々に方向転換し，「大学入試のあり方に関する検討会議」における今後の方針に関する議論が続いている。

加えて勃発したのが新型コロナウイルス感染症（以後，「COVID-19」と表記する）の蔓延である。第１波と呼ばれる最初の流行期は 2020（令和２）年３月中頃から５月頃であった。具体的な感染機序が解明されておらず，未知の感染症への恐れも伴って，社会全般に広範な行動制限が加えられた。2020（令和２）年度入試への影響は局所的に抑えられた[1]が，緊急事態宣言の発令に先だって公教育の活動は３月から停止し，本来４月からの新年度開始も実質的に大幅に遅れた。

大学でも全国的にキャンパス閉鎖やオンライン授業への移行が慌ただしく進む中，テレワークも加わって大学入学者選抜の準備が進まない状況となった。さらに，秋入学移行の議論に巻き込まれた（倉元，2020a）こともあり，文部科学省による全国的な対応方針の表明も，５月に総合型選抜，学校推薦型選抜に関して配慮を求める通知（文部科学省高等教育局長，2020a）が発出されたのが最初となるなど，遅れがちとなった。

大学入学者選抜実施要項（以後，「要項」と略記する）の公表も例年から３週間ほど遅れた６月 19 日に発出された（文部科学省高等教育局長，2020b）。要項の概要は事前に知らされるのが慣例となっているが，COVID-19 に関わる広範な特別対応は要項の公表で初めて明確になった。一般選抜では，大学入試センター試験に替わる初年度の共通テストについて，学習の遅れに配慮して２週間後の「第２日程」を選択できる制度，２月 13，14 日に「特例追試」が設けられることとなった。また，個別学力検査にも COVID-19 の罹患に配慮した追試験が設けられるなど，大きな変更があった。各大学は入試日程等に大きな変更を余儀なくされ，急遽，７月末の公表期限に向けて選抜要項の詰めの作業を行うこととなった。とりわけ，横浜国立大学が一部を除いて個別学力検査中止を公表したことは，大きなインパクトを持って受け止められたと思われる。

### 1.2 令和３年度入試に向けた高校調査

東北大学では，学内の感染症対策本部や文部科学省から通知される COVID-19 への対応方針に依拠しつつ，公表通りの選抜の実施を基本として準備が進められた。それでも 10 月にＡＯ入試Ⅱ期[2]の出願，11 月には実施を控え，何をどこまで準備すべきか，的確な判断を下す根拠となる情報が不足していた。ひき続き，翌年２月にはＡＯ入試Ⅲ期と一般選抜前期日程個別試験，３月には後期日程個別試験も控え，方針策定のためのエビデンスが求められていた。

そこで，急遽，COVID-19 への対応をテーマとして，2017（平成 29）年度から年度末の時期に実施していた東北大学の入学者選抜に関わる高校調査を８月に前倒しで実施することとした。「県境をまたいだ行動制限が要請されるような状況」を想定したうえで，大学入試はその例外と位置付けて予定通り実施すべきか，何らかの特別な対応をすべきかについて問う内容とした。

一連の高校調査はその都度テーマを決めて行われてきた。初回の 2017（平成 29）年度は高大接続改革に伴う「自己採点利用方式」の導入や英語民間試験，共通テストに導入予定であった記述式の利用に関する調査（倉元・長濱，2018; 倉元・宮本，2018; 倉元・宮本・泉, 2018; 倉元ほか，2019）であった。２回目は前回調査を参考に決定された「予告」や一般選抜の主体性評価用チェックリスト導入に関する意見（倉元・長濱，2019; 倉元・宮本・長濱，2020）に関する内容であった。３回目は結果的に中止となった東京オリンピック開催に伴う 2020（令和２）年度オープンキャンパスの日程変更等が中心の調査であった。本稿の調査はそれらに続く第４弾の高校調査と位置付けられる。

なお，今回の調査内容は東北大学の個別大学としての対応に関するものであり，共通テストへの対応は含まれない。東北大学の入学者選抜は，選抜対象となる母集団が異なる特別選抜を除くと，ＡＯ入試Ⅱ期，ＡＯ入試Ⅲ期，一般選抜が存在するが，特徴が異なることから，それぞれについて尋ねることとした。

## 2　方法

### 2.1 調査対象

例年の調査に準じ，全国の高等学校，中等教育学校及び高等専門学校 6,015 校のうち, 東北大学に志願者, 合格者を多数輩出する高等学校等 325 校を調査対象とした。選定基準は以下の通りである。いずれも前回までの調査基準を踏襲し，今回の調査に合わせて調整したものである。一部に入れ替わりはあるものの，大半の調査対象校は例年同一である [3]。

(1) 2014（平成 26）～2020（令和２）年度入試において通算合格者数 11 名以上の高等学校 / 中等教育学校（該当 300 校）
(2) 2014（平成 26）～2020（令和２）年度入試において通算合格者数８名以上の高等学校 / 中等教育学校のうち，ＡＯ入試Ⅱ期・Ⅲ期の双方に合格実績がある学校（該当 25 校）

### 2.2 調査方法

例年の調査と同様, 質問紙調査とした。調査票は A4 判両面１枚である。東北大学のＡＯ入試Ⅱ期及びⅢ期に対する認知及び関心に関わる質問が合計４項目，ＡＯ入試Ⅱ期第１次選考，第２次選考，ＡＯ入試Ⅲ期第２次選考，一般選抜個別試験に関する項目が各１項目ずつ合計４項目の計８項目, 加えて自由記述欄がある。

実施方法は基本的に前回調査と同様である。郵送で調査票を送付し，回答用特設 WEB サイトに QR コード等を通じてアクセスしての回答を標準とした。その他, 電子メール, FAX 及び郵送による回答も可とした。調査票は MS-Word 版と一太郎版を用意し，ウェブサイトからダウンロードして入力することも可能とした。

2020（令和２）年８月３日に調査票が送付された。２度の督促を経て最後の回答は 2020（令和２）年 10 月 26 日に受け付けられたものである。

### 2.3 集計方法

例年の調査と同様，本調査の目的に鑑み，単純集計の他に調査目的に応じて通算，ＡＯ入試Ⅱ期またはⅢ期の志願者数，合格者数を重みとして用いた。

## 3　結果

### 3.1 カバー率

調査設計段階でのカバー率を表１に示す。調査対象校として選定された学校は全国の高等学校等のうち 5.4% に過ぎないが，志願者数や合格者数を基準にすると，全ての基準において８割以上が含まれている。

表 1. 調査規模，返送率，カバー率

| | 調査票送付校 | 対象数 | 調査設計カバー率 | 返送率 | 実質カバー率 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単純集計 | 325 | 6,015 | 5.4% | 81.2% | 4.4% |
| 全志願者数 | 44,901 | 54,777 | 82.0% | 89.2% | 73.1% |
| 全合格者数 | 15,090 | 17,737 | 85.1% | 90.2% | 76.7% |
| AOⅡ志願者数 | 4,024 | 5,028 | 80.0% | 92.1% | 73.7% |
| AOⅡ合格者数 | 1,261 | 1,488 | 84.7% | 93.4% | 79.2% |
| AOⅢ志願者数 | 5,216 | 6,087 | 85.7% | 90.5% | 77.6% |
| AOⅢ合格者数 | 1,891 | 2,103 | 89.9% | 92.1% | 82.8% |

### 3.2 回収率と実質カバー率等

最終的に 264 校からの回答が得られた。表１に示す通り, 返送率は単純集計で 81.2% に達した。設計段階のカバー率に返送率を乗じた実質カバー率は全志願者数基準で 73.1%，全合格者数基準で 76.7% に達している。ＡＯⅡ期，Ⅲ期の各基準でも 73.7 ～ 82.8% に達しており，本調査の結果は本学に志願者を輩出する高校の代表的な意見を表すと考えてよい。

なお，回答及び返送方法としては WEB 回答が 208 件（78.8%），FAX が 44 件（16.7%），メール（添付ファイル）が９件（3.4%），郵送が３件（1.1%）であった。同一校から複数回の回答が寄せられた場合には，最初の回答を有効とした。回答返送状況を図１に示す。

８月７日から返送が始まり，過半数は８月中に回答が寄せられた。2021（令和３）年度入試におけるＡＯ入試Ⅱ期の募集開始日は10月16日であったが，それ以前に258件（97.7%）の回答が寄せられていた。

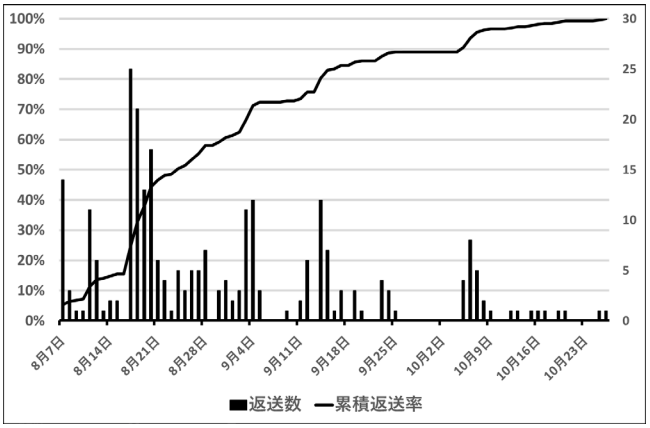


図１．回答返送状況

### 3.3 ＡＯ入試Ⅱ期

#### 3.3.1. ＡＯ入試Ⅱ期に関する認知と関心

東北大学のＡＯ入試Ⅱ期に関する認知について４段階評定で質問した。結果を表２に示す。

表２．東北大学AO入試Ⅱ期に関する認知

| | 単純集計 | 志願者数集計* | 合格者数集計* |
|---|---|---|---|
| よく知っている | 118 (44.7%) | 2,835 (76.5%) | 906 (76.9%) |
| ある程度知っている | 123 (46.6%) | 841 (22.7%) | 259 (22.0%) |
| あまり知らない | 16 (6.1%) | 29 (0.8%) | 13 (1.1%) |
| ほとんど知らない | 7 (2.7%) | 2 (0.1%) | 0 (0.0%) |

*: ＡＯⅡ期の志願者数，合格者数

単純集計結果では「あまり知らない」「ほとんど知らない」は合計10%に満たない。残りが「よく知っている」と「ある程度知っている」に２分される。重みづけ集計では，3/4以上が「よく知っている」と回答している。「ある程度」を加えると約99%に達する。

次に，東北大学のＡＯ入試Ⅱ期に関する関心について４段階評定で質問した。結果を表３に示す。単純集計結果で見た場合，「あまり関心はない」「ほとんど関心はない」は合計 5%に満たない。「強い関心がある」は半数を超え，「ある程度関心がある」も４割を超える。重みづけ集計では，85%以上が「強い関心」と回答しており，「ある程度関心」を合わせると99.7%に達する。

以上のことから，本研究の回答者は十分な知識と関心の下，以下の回答を寄せていると考えてよい。

表３．東北大学AO入試Ⅱ期に対する関心

| | 単純集計 | 志願者数集計* | 合格者数集計* |
|---|---|---|---|
| 強い関心がある | 140 (53.0%) | 3,228 (87.1%) | 1,012 (85.9%) |
| ある程度関心がある | 111 (42.0%) | 468 (12.6%) | 163 (13.8%) |
| あまり関心はない | 12 (4.5%) | 11 (0.3%) | 3 (0.3%) |
| ほとんど関心はない | 1 (0.4%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) |

*: ＡＯⅡ期の志願者数，合格者数

ＡＯ入試Ⅱ期は，2021（令和３）年度入試から実施する全ての入試区分において第１次選考で筆記試験を課し，第２次選考で面接試験を課す。したがって，調査項目も第１次選考と第２次選考に分けた。なお，提出書類の審査は学部ごとに取り扱いが異なっている。

#### 3.3.2. ＡＯ入試Ⅱ期第１次選考に対する意見

第１次選考では，入学後の教育に必要なアカデミック分野の基礎的資質・能力を測るための筆記試験が行われている。調査票には第１次選考での筆記試験実施が明示されている。状況設定としては「第１次選考の時期に県境をまたいだ行動制限が要請されるような場合，面接試験を中心とした第２次選考も実施困難な状況である」とした。

選択肢は「大学入試は行動制限の例外と位置づけ，予定通り筆記試験を実施する」，「日程を延期して筆記試験を実施する」，「地方会場を設けて筆記試験を実施する」，「筆記試験が中止となってもやむを得ない（提出書類のみで選抜を行う）」，「選抜を中止し，募集人員をＡＯⅢ期と一般選抜に振替える」の５肢択一とした。

表４．AO入試Ⅱ期第１次選考に対する意見

| | 単純集計 | 志願者数集計* | 合格者数集計* |
|---|---|---|---|
| 予定通り実施 | 63 (23.9%) | 892 (24.1%) | 265 (22.5%) |
| 日程延期して実施 | 14 (5.3%) | 348 (9.4%) | 112 (9.5%) |
| 地方会場で実施 | 114 (43.2%) | 1,932 (52.1%) | 625 (53.1%) |
| 筆記試験中止 | 26 (9.8%) | 160 (4.3%) | 46 (3.9%) |
| 選抜中止，定員振替 | 47 (17.8%) | 375 (10.1%) | 130 (11.0%) |

*: ＡＯⅡ期の志願者数，合格者数

調査結果は表４に示すとおりである。最も多かったのが「地方会場で実施」であり，単純集計で 40%強，重みづけ集計ではそれぞれ 50%を超えた。「予定通り実施」も約1/4ほどあり，例年に近い形で実施して欲しいという意見が大勢を占めたと考えられる。一方，「筆記試験中止」と「日程延期」は少なかったが，単純集計と重みづけ集計で様相が異なり，重みづけの方

が「筆記試験中止」の意見が少なかった。従来から，「学力重視のＡＯ入試」と位置付けて広報してきたが，ＡＯ入試Ⅱ期に多くの受験生を送り出す高校ほど，筆記試験が必須であるという認識を示した格好である。

### 3.3.3.　ＡＯ入試Ⅱ期第２次選考に対する意見

第２次選考では，東北大学への志望と入学後の研究への強い意欲の保持を確認することを目的に面接試験が行われている。調査票には面接試験の実施を明示した。状況設定として「第１次選考は実施済み」とした。

選択肢は基本的に第１次選考に関する項目と同じだが，「オンライン等の代替手段を用いて面接試験を実施する」という選択肢を加えて６肢択一とした。また，「面接試験が中止となってもやむを得ない」については，「提出書類および筆記試験で選抜を行う）」とした。

表５．AO 入試Ⅱ期第２次選考に対する意見

| | 単純集計 | 志願者数集計* | 合格者数集計* |
|---|---|---|---|
| 予定通り実施 | 45 (17.0%) | 614 (16.6%) | 187 (15.9%) |
| 日程延期して実施 | 5 (1.9%) | 81 (2.2%) | 18 (1.5%) |
| 地方会場で実施 | 38 (14.4%) | 534 (14.4%) | 195 (16.6%) |
| オンライン等で実施 | 115 (43.6%) | 1,513 (40.8%) | 475 (40.3%) |
| 面接試験中止 | 47 (17.8%) | 923 (24.9%) | 288 (24.4%) |
| 選抜中止，定員振替 | 14 (5.3%) | 42 (1.1%) | 15 (1.3%) |

*: ＡＯⅡ期の志願者数，合格者数

調査結果は表５に示すとおりである。最も多かったのが第１次選考には設けていなかった「オンライン等で実施」であり，全体の４割強を占めた。「地方会場で実施」が少なくなり，15%前後となった。「オンライン」が「地方会場」の代替と捉えられた格好である。なお，選択肢数が異なるので単純に比較することはできないが，「予定通り実施」は第１次選考ほど多くはなかった。「面接試験中止」は重みづけ集計では約 1/4 ほどを占め，第１次選考とは対照的な結果であった。

最も少なかった回答が「選抜を中止し，募集人員をＡＯⅢ期と一般選抜に振替える」であり，重みづけ集計では 1%程度であった。基本的に「筆記試験を中心とした第１次選考が実施されれば，面接試験が中止となっても選抜は成立する」と考えられているようだ。

## 3.4 ＡＯ入試Ⅲ期

### 3.4.1.　ＡＯ入試Ⅲ期に関する認知と関心

東北大学のＡＯ入試Ⅲ期に関する認知について４段階評定で質問した。結果は表６に示すとおりである。

表６．東北大学 AO 入試Ⅲ期に関する認知

| | 単純集計 | 志願者数集計* | 合格者数集計* |
|---|---|---|---|
| よく知っている | 128 (48.5%) | 3,593 (76.1%) | 1,399 (80.3%) |
| ある程度知っている | 111 (42.0%) | 977 (20.7%) | 309 (17.7%) |
| あまり知らない | 16 (6.1%) | 109 (2.3%) | 21 (1.2%) |
| ほとんど知らない | 8 (3.0%) | 26 (0.6%) | 4 (0.2%) |

*: ＡＯⅢ期の志願者数，合格者数

単純集計結果で見た場合，「あまり知らない」「ほとんど知らない」は合計 10%に満たない。残りが「よく知っている」，「ある程度知っている」でほぼ２分される。重みづき集計では，3/4～８割程度が「よく知っている」と回答しており，「ある程度知っている」を合わせると 97%以上に達する。

次に，東北大学のＡＯ入試Ⅲ期に対する関心について４段階評定で質問した。結果は表７に示す[4]。

単純集計結果の場合，「あまり関心はない」「ほとんど関心はない」は合計 6%程度である。「強い関心がある」は６割近くに達し，「ある程度」も 1/3 を超える。重みづけ集計では 85%前後が「強い関心がある」と回答しており，「ある程度」を合わせると 99%を超える。「ほとんど関心はない」という回答は皆無であった。

表７．東北大学 AO 入試Ⅲ期に対する関心

| | 単純集計 | 志願者数集計* | 合格者数集計* |
|---|---|---|---|
| 強い関心がある | 154 (58.3%) | 3,937 (83.4%) | 1,525 (87.5%) |
| ある程度関心がある | 93 (35.2%) | 712 (15.1%) | 197 (11.3%) |
| あまり関心はない | 15 (5.7%) | 52 (1.1%) | 11 (0.6%) |
| ほとんど関心はない | 1 (0.4%) | 4 (0.1%) | 0 (0.0%) |

*: ＡＯⅢ期の志願者数，合格者数

以上のことから，本研究の回答者は十分な知識と関心の下に回答を寄せていると考えてよい。

なお，ＡＯ入試Ⅲ期の第１次選考には共通テストを用いるので，項目は第２次選考に対してのみ設けることとした。

### 3.4.2.　ＡＯ入試Ⅲ期第２次選考に対する意見

ＡＯ入試Ⅲ期はⅡ期とは異なり共通テストを第１次選考で行うため，第１次選考で独自の選抜資料は課していない。したがって，調査においては第１次選考に関する項目は設けず，第２次選考に関わる質問のみとした。なお，第２次選考では一部の選抜区分で筆記試験を課すものの，大半は面接試験のみの実施である。リード文本文に明示していないが，選択肢を共通テス

ト実施済みが前提と読み取れる表現とした。

選択肢は，「大学入試は行動制限の例外と位置づけ，予定通り筆記試験を実施する」，「第２次選考が中止となってもやむを得ない（共通テストおよび提出書類のみで選抜を行う）」，「選抜を中止し，募集人員を一般選抜に振替える」の５肢択一とした。実施日程が極めてタイトであることから，日程の延期，オンラインおよび地方会場設置などの対応は実質的に不可能である。

表８．AO 入試Ⅲ期第２次選考に対する意見

| | 単純集計 | 志願者数集計* | 合格者数集計* |
|---|---|---|---|
| 予定通り実施 | 71 (26.9%) | 1,193 (25.3%) | 391 (22.4%) |
| 第２次選考中止 | 157 (59.5%) | 2,984 (63.2%) | 1,175 (67.5%) |
| 選抜中止，定員振替 | 35 (13.3%) | 528 (11.2%) | 167 (9.6%) |

*: ＡＯⅢ期の志願者数，合格者数

調査結果は表８に示すとおりである。最も多かったのが「第２次選考中止」であり，その点ではＡＯ入試Ⅱ期とは異なる結果となった。共通テストの実施が前提であることから，多くの回答者が面接試験と同一と理解したとが考えられる。「選抜を中止し，募集人員をＡＯⅢ期と一般選抜に振替える」の選択もＡＯ入試Ⅱ期の第１次選考に対する回答と同様に１割程度あった。

### 3.5 一般選抜個別試験

一般選抜については，基本的な知識や関心がない回答者は存在しないことを前提に，認知や関心に関する設問を設けなかった。

選択肢は５肢択一とした。「大学入試は行動制限の例外と位置づけ，予定通り筆記試験を実施する」，「日程を延期して筆記試験を実施する」，「地方会場を設けて筆記試験を実施する」，「個別試験が中止となってもやむを得ない（共通テストのみで選抜を行う）」という４つの選択肢は基本的にＡＯ入試Ⅱ期と同様である。特徴的なのは５番目の選択肢で，「令和３年度入試の募集を取りやめる」というものである。

表９．一般選抜個別試験に対する意見

| | 単純集計 | 志願者数集計* | 合格者数集計* |
|---|---|---|---|
| 予定通り実施 | 76 (28.3%) | 13,323 (33.3%) | 4,335 (31.8%) |
| 日程延期して実施 | 21 (6.0%) | 3,192 (8.0%) | 1,057 (7.8%) |
| 地方会場で実施 | 103 (39.0%) | 15,487 (38.7%) | 5,441 (40.0%) |
| 個別試験中止 | 63 (23.9%) | 7,890 (19.7%) | 2,727 (20.0%) |
| 募集取りやめ | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) |

調査結果は表９に示すとおりである。「令和３年度入試の募集を取りやめる」との選択肢を選んだ回答が皆無であったことが最大の特徴と言える。最も選択が多かったのがＡＯⅡ期第１次選考と同様の「地方会場で実施」で約４割，次いで「予定通り実施」が約 1/3 であった。「個別試験中止」も約２割あったが，少数意見に止まっている。「日程の延期」は１割に満たなかった。

## 4　考察

本調査は COVID-19 の第１波が収束した後，７月末から８月にかけての第２波と呼ばれる２度目の流行が収束にかかった頃に実施されたものである。本調査の場合，調査時期，回答時期が重要な意味を持つ。調査時期は COVID-19 に対する極度の警戒感が薄れていくと同時に，感染症対策については未解明の部分が多かった頃に当たる。秋から冬にかけての第３波の襲来が予想されており，再度の流行に対する警戒感が強かった半面，入試の実施場面における接触が感染をもたらす可能性に関して，明確に否定できる具体的かつ客観的な根拠は見出せていなかった。

COVID-19 流行下で初めて行われた大学入学者選抜を経験した現在において，入試による感染が報じられたケースが皆無だったことは社会的に高く評価されるべきであろう。その背景には，文部科学省が示した的確な指針とそれを忠実に励行しようと腐心した個別大学，さらには感染予防に努めた受験生と周囲の努力がある。ウィズコロナにおける初の入試の経験から，過度に感染症を恐れて選抜方法を変更し，受験生の努力を無にする必要がないことは示されたと言える。

半面，残された課題も大きい。地方会場の設置は現実的には個別大学一大学では実現不可能である。真剣に実現を目指すとすれば，入試の実施を一括で扱う組織の新たな設置など，実施が個別大学に任されている現行の仕組みを根本的に見直す必要性があり，ハードルが高い。オンライン入試の導入も調査当時は期待が高かったが，実際に経験してみると様々な問題が噴出したようだ。東北大学もＡＯ入試Ⅱ期の第２次選考におけるオンライン面接試験の可能性も検討したが，幸いにも実現には至らなかった。オンライン入試の研究は一部に検討事例も報告されているが，研究の累積が期待される。現状では対面型の入試に代替する水準に至ってはいないと思われる（例えば，倉元・林，2021）。

流行状況がより深刻な欧米では，COVID-19 流行下での大学入学者選抜に対して，大胆な特別措置が取られたようである。一方，東アジア文化圏に位置する中国，韓国では，日本と同様に従来の選抜方法を保つこ

とが腐心された（南，2021）。「受験生保護の大原則」（倉元，2020b）の根本精神は，受験生の努力を発揮する機会の保障ある。「ウィズコロナ時代」の大学入学者選抜方法の再構築は喫緊の課題だが，従来と同様に受験生保護の精神に則って検討されるべきであろう。

## 注

1) 大学職員のCOVID-19感染が判明した北海道大学ほか，感染が拡大していた北海道を中心に数校が後期日程の個別試験を中止するなど，一部には影響が見られた。
2) 2021（令和３）年度入試から，従来の「ＡＯ入試」は「総合型入試」へと変更されることとなった。東北大学では，従来の「アドミッションズ・オフィス入学試験（ＡＯ入試）」を「ＡＯ入試（総合型選抜）」と変更し，略称としての「ＡＯ入試」「ＡＯ入試Ⅱ期」「ＡＯⅡ期」「ＡＯ入試Ⅲ期」「ＡＯⅢ期」は変更しないこととした（東北大学，2019）。
3) 本調査の実施までの倫理審査関連手続きは倉元ほか(2019) に準ずる。東北大学における全学学部入試関係の会議（非公表）の審議の資料を収集するための調査と位置付けられている。実施主体の上位組織における研究倫理規定である「東北大学高度教養教育・学生支援機構における人間を対象とする研究の倫理審査に関する申し合わせ（東北大学高度教養教育・学生支援機構，2014）」における研究倫理審査委員会の審査対象外である。
4) ＡＯ入試Ⅲ期に関する３つの項目に関しては無回答の学校が１校あったため，相対度数の合計は 100% に満たない。

## 謝辞

本研究はJSPS科研費JP20K20421の助成による研究成果の一環である。

## 文献

中央教育審議会 (2014).『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育，大学教育，大学入学者選抜の一体的改革について――すべての若者が夢や目標を芽吹かせ，未来に花開かせるために――　(答申)』2014年12月22日〈http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2015/01/14/1354191.pdf〉最終閲覧日 2021年４月３日.

倉元直樹 (2020a). 『今年の大学生を「ロスト・ジェネレーション」にするな！』「こころ」のための専門メディア note〈https://www.note.kanekoshobo.co.jp/n/nda0a8c35dd00〉最終閲覧日 2021年４月４日，金子書房.

倉元直樹 (2020b). 「受験生保護の大原則と大学入試の諸原則」倉元直樹監修・編『「大学入試学」の誕生』東北大学大学入試研究シリーズ，金子書房.

倉元直樹・林如玉 (2021).「大学入試における少人数を対象としたオンライン筆記試験の可能性――大学の授業における期末考査をモデルケースとして――」『大学入試研究ジャーナル』，**31**, 338-344.

倉元直樹・宮本友弘 (2018).「大学入試における英語認定試験の利用に対する高校側の意見――主として賛否の根拠をめぐって――」『日本教育心理学会第60回総会発表論文集』，270.

倉元直樹・長濱裕幸 (2018).「高大接続改革への対応に関する高校側の意見――自己採点利用方式による第１次選考，認定試験及び新共通テスト記述式問題の活用――」『全国大学入学者選抜研究連絡協議会第13回大会研究発表予稿集』，78-83.

倉元直樹・長濱裕幸 (2019). 「2021年度東北大学入試の予告に対する高校側の評価――『受験生保護の大原則』の観点から――」『全国大学入学者選抜研究連絡協議会第 14 回大会研究発表予稿集』，39-44

倉元直樹・宮本友弘・泉毅 (2018).「大学入学共通テスト記述式問題の利用に対する高校側の意見」『日本心理学会第 82 回大会発表論文集』，937.

倉元直樹・宮本友弘・長濱裕幸 (2019).「高大接続改革への対応に関する高校側の意見――東北大学の AO 入試を事例として――」『日本テスト学会誌』，**15**，99-119.

文部科学省高等教育局長 (2020a).『高等学校等の臨時休業の実施等に配慮した令和３年度大学入学者選抜における総合型選抜及び学校推薦型選抜の実施について（通知）』，２文科高第161号，令和２年５月14日.

文部科学省高等教育局長 (2020b).『令和３年度大学入学者選抜実施要項』，２文科高第281号，令和２年６月19日.

南紅玉 (2021). 「大学入試における各国のCOVID-19対策――日本，中国，韓国の共通試験を事例に――」『日本テスト学会誌』，**17**，採択済.

東北大学 (2019). 『令和３年度（2021）年度入学者選抜における入学試験名称等の変更について（予告）』，令和元年７月17日.〈http://www.tnc.tohoku.ac.jp/images/news/20190717yokoku_1.pdf〉最終閲覧日 2021年４月４日.

東北大学高度教養教育・学生支援機構 (2014).『東北大学高度教養教育・学生支援機構における人間を対象とする研究の倫理審査に関する申し合わせ』2014年９月２日.〈http://www.ihe.tohoku.ac.jp/cahe/wp-content/uploads/2011/04/91ba049642718499c6a1a395d0a50ce7.pdf〉最終閲覧日 2021年４月４日.